

Biscuit Letter

微助っ人 レター

No. 32
2022.5

目次

- P.1 ごあいさつ・会について
- P.2~3 2021年度活動報告
- P.4 2022年度活動方針
- 2022年度幹事
- 編集後記



顔を合わせて例会したいですね！

京都微助っ人研究会 代表幹事 門井 秀衡

はじめに新型コロナウイルス感染症に罹患された方々にお見舞い申し上げますとともに、1日も早い快復を心よりお祈り申し上げます。

京都微助っ人研究会は、1994年に発足して以来、30年近くを京都企業のみなさまと一緒に過ごしてまいりました。その名の通り、「微力ながら、みなさまのお役に立つ」よう情報提供、講演開催などを行っておりまます。また、グループディスカッションを通して具体的な課題の落とし込み、情報交換などを通じてお役に立つことをめざしています。

ここ2年あまり、新型コロナウイルス感染症の影響で、集合しての例会を開催する事が困難な状況が続きました。それでもIT技術を活用したWeb開催により、総会ならびに例会を開催してきました。

昨年度は、サブテーマを「コロナ後の働き方を探る」として、同志社大学・藤本教授を招いての講演、京都テレワーク推進センター様の協力をよる、テレワークの現状について具体的なツールも紹介いただきました。ホリスティックコミュニケーション様のコロナ禍におけるメンタルケアやコミュニケーションについての講演もとても参考になったと思っております。

本年度は、メインテーマの「人事・総務担当者の成長が会社の発展につながるように」に一旦立ち返り、法改正なども含めた会社としての取組みに焦点をあてながら企画していきたいと考えております。

状況を見ながらにはなりますが、みなさまと顔を合わせての例会を開催していきたいと考えております。ぜひご参加いただき一緒に京都微助っ人研究会を盛り上げていただきますよう、本年もよろしくお願ひいたします。

ホームページ(<http://kyoto-bisuketto.com/>)

Facebook(@kyoto.bisuketto.studygroup)も開設しております。ぜひ、ご覧ください。



京都微助っ人研究会は人事・労務担当者の情報交換と交流の場なんです。

本会は主に中小企業の人事・労務担当者、社会保険労務士の方、そのOB・OGが会員となり、相互の困り事を解決するための情報交換の場です。活動については京都府の後援をいただいている。例会では、さまざまな講師を招いて講演会を開催し、最先端の情報収集にも努めています。ぜひ周囲の方に入会をおすすめください。

[会費のご案内] 年会費 6,000円 (企業会員)

*企業会員は総会・例会に1企業・団体あたり2名まで参加できます。

個人会員は入会された方のみ参加可能です。

3,000円 (個人会員)

*年度途中の入会は会則により、入会期間分の会費となります。

*見学は無料ですが、公開講演会をのぞき原則1回とさせていただきます。

入会・見学を希望される場合はその旨を記したE-mailをpost@kyoto-bisuketto.comまで送信ください。追ってご連絡を差し上げます。多くの方の入会で楽しい会を作りたいと思いますのでよろしくお願ひします。



2021年度の活動報告 (2021.4~2022.3)

2021年度(2021年4月~2022年3月)は新型コロナウイルス感染防止のためのワクチン接種が進んだこともあり、いたん感染者数は減少に向かいました。しかし、オミクロン株の感染拡大で再び感染者が激増し、現在に至っています。

一方でグローバル経済の混乱が長期化する中、ロシアのウクライナ侵攻がおこり、ますます混沌とした状態になっています。

2021年

- 2月17日 新型コロナウイルスワクチン接種開始。4月から高齢者の優先接種、その後一般に拡大され、2021年末までに80%超が2回の接種済に。
- 3月21日 首都圏4県の緊急事態宣言解除
- 4月 「まん延防止等重点措置」が大阪府、京都府など11都道府県に適用される
- 4月25日 東京、大阪、京都、兵庫に3度目の緊急事態宣言
- 5月 緊急事態宣言、10都道府県に拡大(28日に沖縄が解除)
- 6月20日 9都道府県の緊急事態宣言解除
- 7月 3日 熱海市で大規模土石流が発生し、20人が犠牲に。
- 7月12日 東京都に4度目の緊急事態宣言
- 7月23日 東京オリンピック開催。無観客開催に。日本選手活躍で獲得メダル数は過去最多に
- 8月 京都府を含む7都道府県に新たに緊急事態宣言を発令、計13都道府県に。27日には8道府県を追加し、計21都道府県に。東京パラリンピックが無観客で開催。
- 9月 緊急事態宣言、3度目の延長(30日まで) 東京株式市場で株価が31年ぶりに3万円台に
- 10月19日 都道府県の緊急事態宣言と8県のまん延防止等重点措置を解除

岸田内閣発足

- 秋篠宮ご夫妻の長女眞子さんと小室圭さん結婚
- 第49回衆議院選挙
- 11月 米大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手(27)が、ア・リーグ最優秀選手(MVP)に
- 海外からの入国者から新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染者見つかる。この後国内でも年明けから感染が急速に拡大する。
- 12月 新型コロナウイルスの3回目接種始まる。大阪北区のクリニックで放火。20人以上の死者
- オミクロン株の市中感染拡大

2022年

- 1月 オミクロン株感染拡大でまん延防止等重点措置適用が拡大され、最終的に34都道府県に適用される
- 2月 北京冬季オリンピック開催。過去最多の18個のメダル獲得 将棋の藤井聰太さん、5冠達成 山形、島根、山口、大分、沖縄でのまん延防止等重点措置解除
- 2月24日 ロシア、ウクライナに侵攻
- 3月 福島県沖を震源とする地震で新幹線脱線
- 3月22日 まん延防止等重点措置全面解除
- 4月 東京外国為替市場の円相場が下落 1ドル=130円台に

このような中、微助っ人研究会は例会のWeb開催を中心に以下の活動を行いました。

第28回総会 (2021年5月27日)



新型コロナウイルス感染症の第4波が到来し、緊急事態宣言、まん延防止措置適用の都道府県が拡大している中、コロナ禍を勘案し、昨年度に引き続き書面での決議いたしました。「委任状・議決権行使書」をご返送いただき、総会には幹事のみWeb

参加する形で行いました。書面による採決の結果、(1) 2020年度事業報告 (2) 2020年度会計報告および会計監査報告 (3) 2021年度幹事の選任案 (4) 2021年度事業計画 (5) 2021年度予算案が会員各位の賛成多数により承認されました。



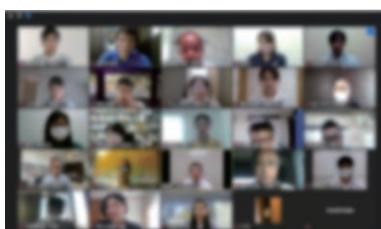
夏の例会 (2021年8月25日)

講演「新型コロナウイルスが京都企業に与えた影響と今後の取組みについて考える」と題し、同社大学社会学部長で教授の藤本昌代先生に講演いただきました。

先生はこのコロナ禍で京都の中小企業を中心に、経済活動に何が起こっていたのか、記録に残しておかないといけないという使命から、中小企業の状況調査を実施され、報告書にまとめられています。

先生からは、2020年から2021年にかけての調査でわかった中小企業の状況についてご報告いただきました。

業種により、影響の度合いに差があるのですが、そんな中で



雇用を維持し、困難を乗り切ろうとする経営者が多いことが報告されました。報告を通じて感じたことは、マスコミにより報道される内容と、統計データや、調査結果から見る実態が相当乖離していることで、マスメディアからの情報をうのみにせず、実際に起こっていることは何なのかをさまざまなデータから、自分で判断することが大切なことを実感したのでした。

横軸に順機能、逆機能、縦軸に事象潜在的、顕在的をとり、対象となる事象がどこに位置するのかをとらえることで、より客観的に考えられるということを学びました。

藤本先生がまとめられた、京都の中小企業がコロナ禍でどのような影響を受け、どのように対処したのかをまとめられた報告書です。



秋の例会（2021年11月19日）



株式会社ホリスティックコミュニケーション代表の豊田直子氏を招き、コロナ禍における労働者と企業のかかわり（特にコミュニケーションの取り方）についてTA心理学の観点から事例を交えてお話をいただきました。

また臨床心理士の立場からメンタルケアについてのお話もお伺いしました。

10月の緊急事態宣言解除後、日本では感染者の発生が非常に少ない状況が続いており、このまま収束するのではという雰囲気もでてきたのですが、これまでには、緊張感をもって、用心するようなことで我慢していたものが、通常に戻るところで、心のコントロールがうまくいかないと異常な行動（＝子供の行動）に走ってしまう。確かに、電車を燃やしたり、見ず知らずの人に突然斬りつけたりのような事件が起こっており、これは心

のコントロールがうまくできないことで発生するものだというご説明に納得しました。自分の心の中をみても、子供の心の対応をとってしまいそうになることがしそうなのですが、大人の心で対応するように、そんなふうに考えるように、たちどもって考えるようになりました。

さらに、質疑の時間を設け、参加された会員各社の困りごとにアドバイスを多数いただきました。

従業員のメンタルケアの問題は日々進化していますが、より専門的な知識を必要とするようになっているなということで、今後も定期的に勉強していきたいと思います。

冬の例会（2022年2月25日）

2020年度の秋例会で講演いただいた、京都テレワーク推進センターの皆様に再度ご登場いただき、前回の講演から1年を経過し、日々進歩を遂げているテレワークの現状についてご紹介いただきました。

オミクロン株による拡大でコロナ感染者数は高止まり感がありますが、冬の例会については万全の態勢を取りつつ会場参加とオンライン（Zoom）参加の両方で開催しました。

この間、リアル開催の会場はウエダ本社さんの2階TRAFFICで開催しました。

（1）京都府テレワークセンターの伊達様より

昨年に比べてパワーアップしたセンターの紹介、相談事例などの紹介がありました。テレワークの導入には設備の導入にとどまらず、社内の制度をテレワークに対応したものに変更する必要がありますが、そのような制度上の相談に対応できるよう、社会保険労務士のスタッフもいらっしゃって、テレワークにとどまらない、幅広い相談に応じる体制になったということです。

センターは四条烏丸の京都産業センターの3Fにありますので、ふらっとお立ち寄りいただいて情報入手から始めてはいかがでしょうか？

（2）京都府テレワークセンターの前田所長と大沼様より

○テレワークとは？

○全国・京都府内のテレワークの現状について

○テレワークの環境整備について

○テレワークツールについて

○ネットワーク関連

（VPN、チャット、リモートデスクトップetc）

○総務人事（勤怠管理）の製品紹介

○電子承認・電子押印の製品紹介

について、説明いただきました。

お二人の掛け合いかいいテンポで楽しく聞くことができました。説明の中で、テレワークの導入率や、導入したけどやめちゃったといった事例の報告がありましたが、会場より「テレワークを実際に行なっての印象として、制度を入れても利用者0



であれば導入したとはいせず、逆に週5日のうち1日とか、月で2、3日程度でもテレワークをしてみたというのから始めて、よければそこから拡大していくべきいのでは」といった意見が寄せられました。

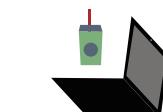
参加者からの質問で、テレワークに関する手当制度の質問がありました。テレワークにかかる光熱費などを負担する名目で手当をつけるのはさまざまな問題があるため、そのような名目とせずに制度を設けている企業が多く、手当の額としては数百円程度が大半とのことでした。

（3）テレワークのセキュリティと対策ツールについて（中井様）

インターネットを介して社内のシステムに侵入されたり、乗っ取られたり、データが読めないようにされたりといった脅威が報道されたりしていますが、それを防ぐための一歩として、従業員それぞれの方が行うべきこと、設備を導入の際に気を付けることについて説明いただきました。

（4）実践事例

会場を提供いただいているウエダ本社さんの事例を紹介いただきました。「宇宙を想え、人愛せ」という社是を創業時から掲げて事業を展開してきたウエダ本社さん、できるだけ制限のない働き方、業務を効率化することで本当にやるべき業務に注力できるためのシステム導入事例についてご紹介いただきました。会場からは「現状で働いている人は満足している状況で、このような業務効率化の取り組みで仕事の内容が変わることによって、果たして働く人は幸せなのか？」というご質問もあり、IT化による業務改善と働く人の満足度、快適がどうなるのかは考慮されなければならないと感じました。





2022年度の活動方針

総会+3回の例会を通じて、企業の人事労務担当者にとって有用な情報の提供を行い、さらに会員の皆様の交流を通じてそれの会社の発展につながるような活動が理想です。新型コロナウイルスの感染者は引き続き高い水準ですが、ある程度対応方法もわかつってきたことから、状況をみながら、以前のような「参加する例会」が実現できるようになります。すっかり定着した感のあるWeb会議ですが、Web形式だから参加できたという声もきますので、両者を併用しながら、進めていくことになると思います。

①メインテーマは「人事・総務担当者の成長が会社の発展につながるように」

会員相互に情報や知識を持ち寄り、情報交換・勉強・問題解決の場となるようにします。

②サブテーマを「コロナ後のニュースタンダードを探る」とします。

コロナによるサプライチェーンの混乱にロシアのウクライナ侵攻があり、これまで比較的安定していたと思っていた世界の状況が大きく変動しています。安定しない中では、企業も人も守りに入りがちですが、将来を見据えて行われているさまざまな新しい取組みや制度について学びながら、コロナ後のニュースタンダードを探ります。

総会・春の例会（6月）

「初夏の例会」として、オフィスヒューマン・杉山久美子先生に「パワハラに代表されるハラスメントに対する取組み」について語っていただきます。



人財のための「福利厚生」

ライフプランと賃金制度

コロナ後のコミュニケーション

働き方改革

健康経営

年金制度改正後のライフプラン

メンタルケア

定年延長

若者に多い「人間関係を理由とする離職」について探る

同一労働同一賃金

社員の力量を伸ばすための社内研修を考える

評価制度など、人事制度の根幹の議論

夏以降の例会については上記のようなキーワードを元に検討し、開催一ヶ月前をめどにご案内します。

開催テーマについてご希望があれば、下記メールアドレス宛て、あるいはFacebookにお寄せください。

【2022年度 幹事体制】

[代表幹事] 門井 秀衡 (月桂冠)

[副代表幹事] 勝野 真士 (京都EIC)

[会計幹事] 加藤 和子 (佐々木化学薬品)

[会計監査] 佐藤 里咲 (京都府)

[広報幹事] 福井 浩二 (ALFRED CONSULTING)

林 菜摘 (ウエダ本社)

[編集幹事] 奥田 哲生 (個人会員)

川道 将人 (田中印刷)

[業務幹事] 田中慎一郎 (ソニー生命)

赤木 一成 (ジョブサポート・オフィス赤木)

八木 千晶 (ニッセンホールディングス)

田村 淑里 (朝日レントゲン)



編集後記

徐々に以前の日常が戻ってきました。京都方面の朝の電車も7時台は高校生、8時台は大学生で混み合っています。大学にも普通のキャンパスライフが戻っているみたいですね。私が一番元に戻したいのは「飲み会」。ずっと外食も控えて、家で飲んでいましたが、乾き物だけをあてにして飲み続けるのは辛かった！はやく昔のように自由に飲みにいけるかなと思います。みなさんともぜひご一緒したいです。でも我慢してたのが爆発して飲み過ぎないように気をつけないとね。(おくちん)

微助っ人レター 第32号 2022(令和4)年6月15日発行

企画・編集・発行 京都微助っ人研究会 <http://kyoto-bisuketto.com/> E-mail post@kyoto-bisuketto.com